雪氷研究大会・講演要旨集フォーマット
－副題はここに－

○雪氷太郎[1], 雪工次郎[2], 大雪花子[3]

1. はじめに
この文書は雪氷研究大会の講演要旨集のフォーマット（ひな形A）です.

2. 原稿執筆要領
2.1　内容
予稿には, 研究の目的, 方法, 結果を明確にわかりやすく記述して下さい. 記述が不十分なものは掲載を認めない場合があります. 学術誌ですから企業などの宣伝行為と見なされないように表題, 本文, 図表, 写真の表現に注意して下さい.

2.2　用紙
予稿はA4判用紙1ページで作成して下さい. 大会ホームページからひな形（MS-Word形式）をダウンロードしてお使い下さい. 本大会では, 2段組と1段組の2種類の書式を用意しています. お好みの書式をお選び下さい. また各々の書式について, 著作権表示が日本雪氷学会のものと日本雪工学会のものを用意していますので, 著作権を移譲したい学会のひな形をお使い下さい.

2.3　原稿の書式
余白は変更しないでください. ひな形Aは, 本文は2段組で作成して下さい. 段間のマージンは2文字分とします. 使用するフォントは演題や見出しはMSゴシックやArialなどのゴシック系を, 本文その他にはMS明朝やTimes New Romanなどの明朝系を使用して下さい. 特殊なフォントは印刷できないことがありますので, できるだけ避けていただき, どうしても必要な場合はPDF作成の際に埋め込むようにして下さい. 図中の説明等において小さな文字を使用する際にも, 5ポイント未満の文字は避けるようにして下さい.

ヘッダーの研究大会に関する情報は変更しないでください. ヘッダー・フッター内の改行幅は10ポイントとします. フッターの罫線は削除しないでください. 次の行から所属を左側に並べて書きます. フッターの右下には著作権表示があります.

ハイパーリンクの埋め込みは著者責任でお願いいたします.

2.4　演題
演題は12ポイントのゴシック系フォントを使用し, 1行目に書きます. 副題が必要ならば2行目に記述して下さい. 副題の文字の大きさは10.5ポイントとします. いずれも行間は14ポイントとします.

2.5　発表者氏名
発表者名は10.5ポイントの明朝体系フォントを使用し, 3行目中央に書きます. 連名の場合は講演者氏名の前に○印を付けて下さい. また, 各々の右肩に1, 2のように数字をつけ、所属と対応するようにしてください. いずれも行間は14ポイントとします.

2.6　見出しと本文
9ポイントのフォントを使用します. 大見出しは行頭から『**1. はじめに**』のように書き, 小見出しは『**1.1　小見出し**』などとして下さい. 大見出しと小見出しにはゴシック系, 本文には明朝系のフォントを使用します. 行間は13ポイントにして下さい.

2.7　図, 表, 写真
図と表は出てくる順に**図1**, **図2**および**表1**, **表2**などとします. 写真は図として扱います. 図は下に説明, 表は上に説明を付けます. 図・写真および表は自己のオリジナルなものを使い, 鮮明なものを使用して下さい. 要旨集のPDF化に伴い、カラーの図・写真も受け付けます.

2.8　参考文献
参考文献の一覧を記す場合は, 引用順に番号を付け, 本文の末尾に記述します. 例にならって, 著者名（発行年）: 文献名, 雑誌名, 巻(号), 開始ページ–終了ページ. の順に記述して下さい.

3. 投稿要領
予稿はPDFファイルに変換し, 大会ホームページの「研究発表登録」から投稿して下さい. 詳しくは大会ホームページ（https://sites.google.com/view/2025jcsir/）を参照して下さい.

参考文献
1)　伊豆田久雄, 生頼孝博, 山本英夫, 1988：凍土の曲げ条件下における変形挙動と強度特性. 雪氷, **50**(1), 25–32.
2) Pedley, M., J. G. Paren and J. R. Potter, 1988: Localized basal freezing within George VI Ice Shelf, Antarctica. *J. Glaciol.*, **34,** 71–77.

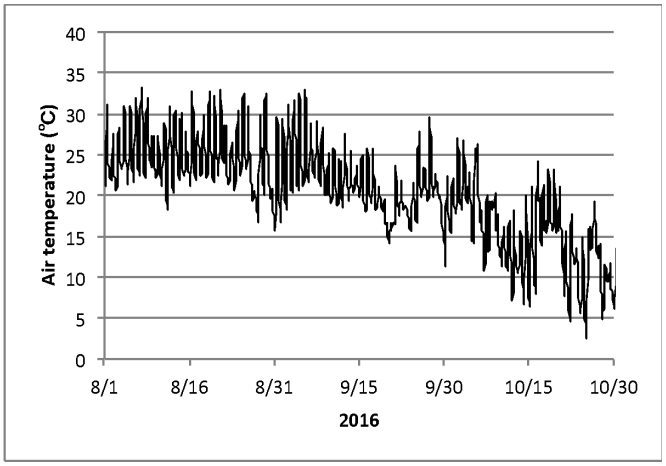

図1　十日町市の気温変化（2016/8/1～10/31）

1　雪氷大学大学院理学研究科
2　雪氷工業大学雪氷環境工学科
3　雪氷大学文学部

©2025 日本雪工学会